

算数

角の大きさ

4年2組

授業者 小林 信行 (T1)・坂本 千秋 (T2)

本時の目標

分度器を用いて角度をはかることができる。

■ 単元の目標

- 角の大きさを、既習の長さやかさなどの場合と関連づけて比べようとする。(関心・意欲・態度)
- 角の大きさを比べるときに、長さや重さなどの場合と同じように、単位の大きさのいくつ分と数値化して考える。(数学的な考え方)
- 分度器を用いて角度をはかったり、角をかいだりすることができる。(表現・処理)
- 角の大きさの単位として「度(°)」が用いられるこを理解する。分度器を用いた角度のはかり方、角のかき方を理解する。(知識・理解)

■ I C T 活用の視点

○ 学習効果を高めるための ICT 活用

分度器を使って角度を測る学習では、教師が角の測り方を子どもたちに見せようとしても黒板では上手に教師用の分度器等を操作することは難しい。そこで、デジタルコンテンツを活用することで児童を画面に集中させ一斉指導することができ、効果的効率的に学習を進められるようとする。

また、児童が間違いやすいところをコンテンツ上で強調することで技能の習得を図るようにする。

さらに、T2は一斉指導時に遅れている子の確認と個別指導を行い指導の徹底を図る。

■ 本時の授業の概要

分度器を操作して角度をはかるのは児童にとって初めての経験となる。また、細かい作業を正確にできない児童が数名いることからデジタルコンテンツの活用とともにT2による個別指導を行い技能の習得を図る。

特に、どの辺を分度器の0を合わせるかと、分度器の内側と外側のどちらの目盛りを使えばよいかを重点的に指導する。

学習活動	指導上の留意点
1. 本時のめあてを確認する。	
分度器を使って角度をはかろう。	
2. 「角度のはかり方」の手順に従い分度器を使って角度をはかる。	電子黒板上にデジタルコンテンツを活用して角度のはかり方を実演する。その際T2と協力して各段階ごとに確認し、全員が確実に操作できるようにする。
3. 辺が短い場合の角のはかり方を考える。	辺を伸ばすことで角度をはかることが可能であるとの理解とともに、辺を伸ばしても角度は変わらないことを押さえる。
4. 90° より大きい角や右回りの角のはかり方を考える。	分度器で測る前に 90° より大きい角度かどうかを予想させる。
5. 練習問題を解き、習熟をはかる。	いろいろな問題に取り組み正確に早く作業ができるようにする。